

## 研究主題

# 基礎的・基本的な内容の定着に関する調査・研究

### 抄録

本研究は、平成14年3月の東京都教育委員会「基礎的・基本的な内容の定着に関する調査報告書」(以下「報告書」と記す。)を基に、各学校の指導改善に資する資料提示をねらいとしている。「報告書」から児童・生徒の国語・算数の学習の定着状況をより詳細に把握し、教科の特性や指導上の課題を踏まえて検証授業を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図るための具体的な手だてを探ってきた。

本研究で明らかになったことは以下のとおりである。

#### 1 東京都の児童・生徒の基礎的・基本的な内容の定着状況

小学校4年と中学校1年の学年全体の正答率を比較すると、国語は上昇し、算数は低下している。また、国語では「漢字の読み」や「内容理解」の正答率は上昇するが、「漢字の書き」の正答率は低下している。算数は、すべての領域で正答率が低下している。

#### 2 検証授業からとらえた基礎的・基本的な内容の定着を図るための手だて

国語では学習したことを活用する単元の構成、算数では学習内容に応じた算数的活動を取り入れた単元構成が有効であった。また、評価規準を作成し、形成的な評価を行うことで、学習の定着状況に応じた支援を工夫することができた。

少人数学習集団による指導は、学習の定着状況等に応じて集団を構成し、問題や資料等の教材を工夫することで効果が上がることが分かった。

#### 3 指導改善に資する資料の作成

検証授業を通して得られた成果を基に、単元構成のモデルを作成するとともに、検証授業を再構成し、実践事例として示した。また、検証授業以外で定着が図られていない内容についての指導例を参考事例として示した。